



商 工 会 報

あ ち

第 41 号

発行 阿智村商工会
43-2241

編集 会報編集委員会
印刷 龍共印刷(株)



気軽に使えらる相談室完成

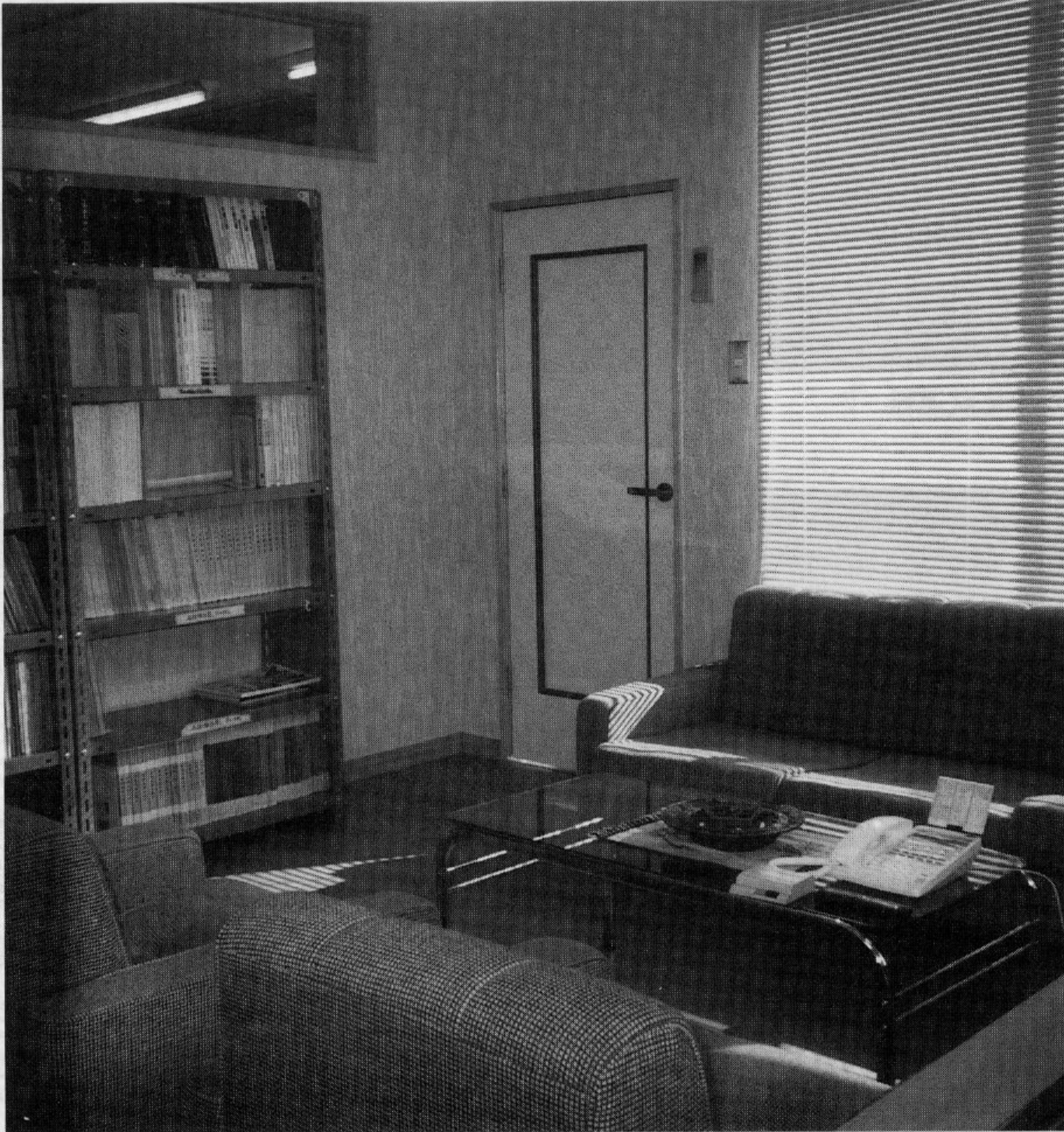
昭和五十六年に建設された現在の商工会館も十七年余り経過し、この間、商工業の総合的な発達と、社会一般の福祉の増進を目的としての活動の拠点として活用されてきました。

中小企業を取り巻く地域経

済社会環境は、大きく構造変化をしていますが、このような状況を背景に、当商工会では、二十一世紀に向けて時代の変化に的確に対応する新しい商工会を目指して活動を行っています。この活動の中、会員より「もっと利用しやすい

商工会館に」、「プライバシーを守れる、気軽に使えらる相談室がほしい」等々の要望が出されました。これを受け、商工会では建設委員会を組織し、協議を重ねた結果、村当局のご理解とご協力により、この程、受付

カウンターと相談室が完成。建設費は、村補助金四百五十万円と、会館維持基金特別会計より四百五十一万四千円を充当し、合計九百一萬四千円。事務所窓口のイメージチェンジと、気軽に使えらる相談室の完成を機に、地域商工業の振興発展のため、地域の皆様に大いに有効活用される事を期待しております。



増築された相談室



「明るくなった」と好評のカウンター

シリーズ

我が家の秘蔵写真

第24回

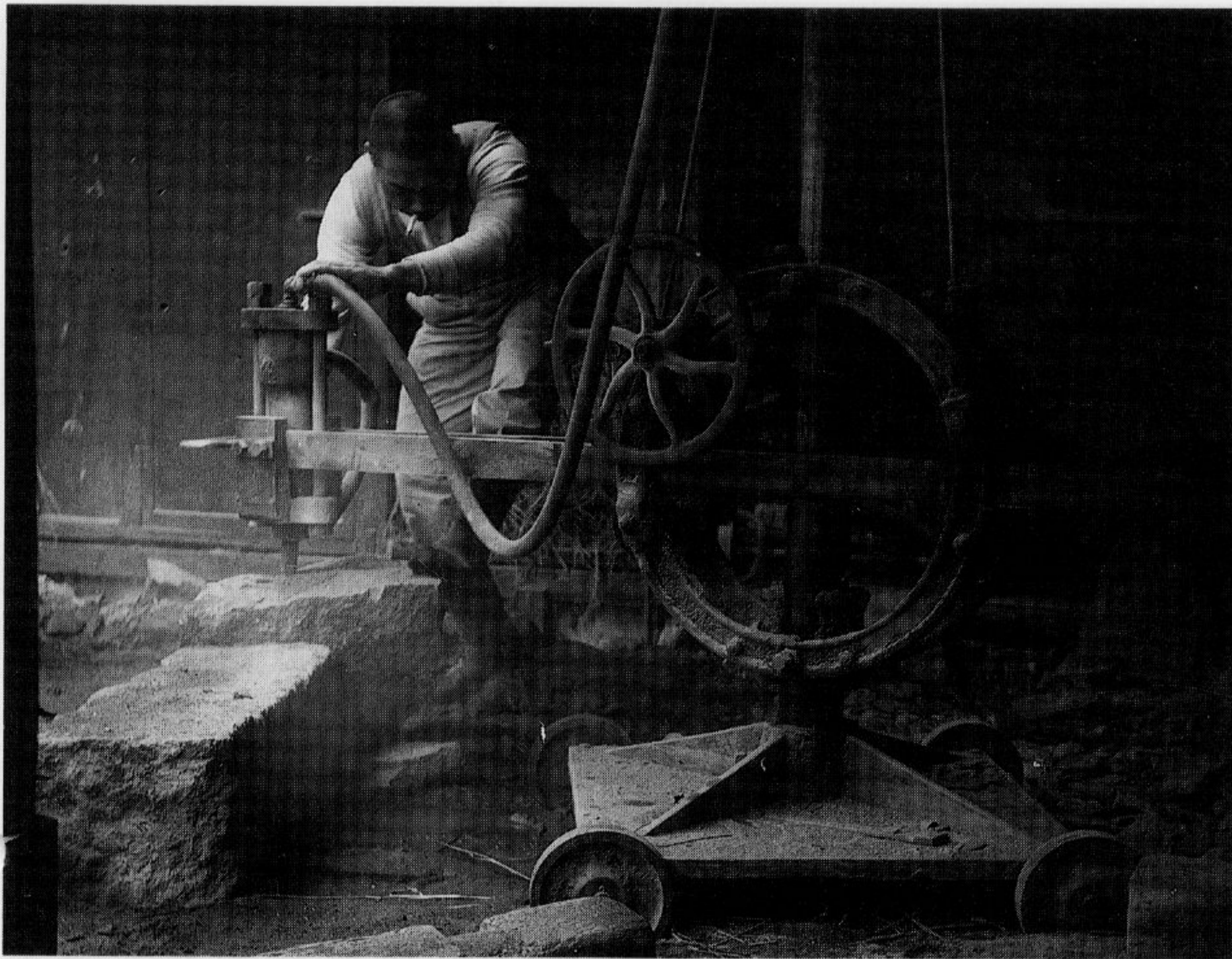
(有)宮嶋石材
宮嶋 章さん所蔵

宮嶋石材さんは、今の智里地区で社長(章さん)のお父さんが、大正時代に開業し、昭和二十二、三年頃に現在の駒場へ移転しました。

当時は、仕事のほとんどが手作業で、文字彫りも手彫りで一番手間がかかり、一文字に丸一日費やしたそうです。その為、お石塔一つ立てるにも二〜三ヶ月位かかりました。(ちなみに現在では二週間程で出来るそうです)

章さんの子供の頃の話ですが、川原から切り出した石はお施主の親戚衆が総出で石屋の作業場へ運び込み、完成すると、また、親戚衆がお墓まで運ぶ手伝いをするといった習慣がありました。

昭和四十年頃には、大型の機械を導入しました。今から言えば簡単に見える機械ですが、当時としては最新式の物



機械屋さんが来て試運転



当時では最新式の研磨機

信金だより

しんきんギャラリーコーナーについてご案内いたします。私どもは地域の皆様方の文化交流にギャラリーのご利用をお願いしています。ご来店の際の待ち時間に観賞して下さいます。新店舗となり4年経過いたしました多くの方の作、コレクションを展示させていただきます大変感動と好評をいただいております。これからも趣味としての教室、公民館活動における教室の作品をぜひ私どもギャラリーへ展示下さるようお待ちしております。

将来にそなえ
こつこつ貯めて
大きな夢を
スーパー定期積金



IIDA SHINKIN BANK
飯田信用金庫

接客講習会

日本料理の原点は「おにぎり」から

毎年恒例の接客講習会が、二月十七日(火)に、昼神温泉観光センターで開催。

例年、フロント係や仲居さんを対象にした接客マナーの話が中心でしたが、本年は、「食」をテーマに、テレビレポーターの神太郎さんから、「まるかじり旅行記」グルメに学ぶ日本人の心」と題し講演をいただきました。

「食」がテーマという事で、厨房関係者も多く、一〇〇名近い聴講者で会場はいっぱいでした。

お話は、日本料理の原点は「おにぎり」にある。石川県

鹿西町で、弥生時代の「おにぎり」の化石が出てきたが、

ご飯を、「にぎって」「むすんで」「つつんで」という作業は、単純ではあるが、母親が子供に対する愛情の様に、暖かいものがある。どんな料理も愛情を込めて作る事により、味も良くなるものだ。と、「食」と「健康」をテーマに旅した先生ならではの話でした。

また、昨今、年輩者と若年者の交わりが少なくなった。年寄りから教えられる事は数多くある。食物にかかわらず文化・伝統等、大いに学ぶべきところがある。そういった意味で『忘年の交り』を心掛けてもらいたいと、締めくくりました。

珠算検定合格おめでとう

二月十五日(日)に商工会館で実施した、第百八回全国商工会珠算検定試験の合格者は、次の皆さんです。

- 二級 井原大輔 河合正俊 佐々木超矢
- 四級 太田あゆみ 北澤薫 熊谷美咲 内田翔貴
- 五級 米澤麻衣
- 六級 木下聡志 山本なつき 佐久間美那 田

- 中亜希奈 阿部朋子 松下千秋

- 七級 福岡広基 井原祐一 熊谷美和子 高坂宏美 金田久美

- 八級 倉田崇史

今回の受験者数は九十八名、合格率は二十・四%でした。七級の井原祐一くんは、満点合格でした。次回の検定試験は、六月十四日です。

企業探訪

No.35

有限会社 倉田設備

- <代表者> 代表取締役 倉田英行
- <創業> 昭和62年
- <資本金> 300万円
- <従業員> 2名
- <業務内容> 給排水工事、下水道工事、浄化槽設置工事

社長の倉田さんは、かつて都庁の水道局に勤務する公務員だった時もありました。退職後、設備工事業を営む親戚に就職し、以来、その他2件の会社を経て、約13年、職人として修業しました。

昭和62年、それまでの経験を活かし独立。倉田設備として開業し、その頃、村内には設備工事専門業者が少なかった事もあり、年々受注も増え着実に業績を伸ばし、平成9年6月に法人成り、有限会社倉田設備を設立しました。

社長のモットーは、「良い仕事」、「丁寧な仕事」を、する事で、「いい仕事をしていれば、仕事が仕事を呼んでくれる、長く続けていく秘訣です」と話して下さいました。

また、給排水工事等の水まわりの仕事は、楽ではありませんが、人のくらしに密着した仕事に携わっていただける事に喜びをもっておられます。

将来的には、設備工事に関する様々な業務に幅広く対応できるような企業にしたいそうです。

これからも、お施主の方や元請先にも気にいってもらえる仕事を心がけていきたいとの事で、今後の活躍が期待されます。



曾山地区にある倉庫と資材置場

青年部

我が青年部からも全国大会出場者を...

青年部長 田中克幸

一月二十二日、二十三日の二日間、長野市のホテル国際21にて、商工会青年部主張発表大会全国大会と指導者研修会が開催され、北海道、南は九州、沖縄までの青年部員が出席した。主張発表全国大会は、毎年一回、全国六ブロックより代表者一名が選出され、日頃、青年部活動を通じて得た自らの経験や成果、意見を発表する。部員相互の研鑽により商工会の次代を担うリーダーとしての意

識の高揚をはじめ若手経営者・後継者としての資質の向上と、地域の活性化が目的である。

今年テーマは、「青年部活動に参加して」「地域振興とまちづくり」「私の経営ビジョン」等で、とかく主張発表となると最近低迷がちではあるが、青年部の発表大会は年々、レベル・質、共に向上している。最優秀賞は、九州ブロック代表に輝いたが、今後、我が青年部からも、地区大

会、県大会を勝ち抜き、全国大会へ出場できるようお願いしたい。

翌日は、地域経済社会と二十一世紀を担う我々青年経営者と、商工業後継者の知識やリーダーとしての指導力を養う目的で、中小企業リサーチセンターの齊藤高志先生より「世代交代期は経営革新のチャンス」と題しての講演を受けた。

この二日間、オリンピック開幕を目前にした時期でもあり、全国から多くの青年部員が集まり、熱気あふれる大会であった。

婦人部

「ながのびな」お礼の手紙が届きました。

大成功の内に閉幕した「長野オリンピック・パラリンピック」。その選手や役員、また、長野駅を訪れた皆さんへのプレゼントとして、婦人部員の製作しました「ながのびな」(第四十号で紹介)。

この度、東京の女性と、県内の男性より「長野駅でいただきました」と、お礼の手紙が届きました。

人生楽しく元気にそしてやれよう

中島敬子

一月二十日、下條村商工会婦人部との合同研修会が、当番村の下條村レスト秋桜で行われました。第十六回目という、素晴らしい交流です。同村へ行く道中は、例年にならない大雪で、道筋には雪がまだ残っていました。

研修会では、スポーツジャーナリストの佐藤安弘氏を講師に、「商売も人生も楽しく元

気にープロ野球に学ぶ商工婦人の役割」と題してお話を聞きました。

今年のラッキーカーラーは「グリーン」と、上着からネクタイ、靴下、手さげ袋までグリーンで統一されて、スポーツ刈りにメガネをかけた、ちょっと小太りでガッチリした先生。恥ずかしながら、野球音痴の私には、どこの球団か、どこ



婦人部合同研修会 (レスト秋桜にて)

編集後記

一月二十四日、まれに見る降雪のなかを「聖火リレー」が多くの声援をうけて、元氣よく通過した。正に冬季大会にふさわしい時期であった。憂慮された北信地方も、県民の願いが届いたのである。降雪に恵まれ、長野オリンピック・パラリンピックが、大変な盛り上がりの中、感動とドラマを残し成功裏に終幕した。

大手金融機関の倒産、そして大蔵官僚の汚職事件等々、暗いニュースの年明けだった。景気低迷の続く中、我々零細商工業者は怒をぶつつける処もない。果ては国民の税金で補填とは何たることだ!! 政治不信がつのるばかり……。

二十八年振りの村長投票選挙があった。「住民参加」で無く「住民主体」の村政を提唱する、新村長の手腕に期待も大きい。自分達で自分達の村造り、商工業者も将来を見据えて、真剣に取組まなければなるまい。

会報編集委員長 荒井利典